

毎年、この時期になると自宅に葉書が届く。転勤された方、退職された方からの挨拶状である。私も転勤の度に知り合いの方々に出すようにしている。

毎年思うことだが、定型の中にもその方らしい文面を見ることができる。それぞれが名文である。特に退職された方の文面には30年の年月を超える思いが溢れており、大変勉強になる。そうしようと決めているわけではないのだが、今までいただいた挨拶状はすべて取ってある。

先日、ある方からの挨拶状が届いた。印刷された文面に加えて手書きで丁寧な文字が並んでいた。その中に「おだやかにリーダーシップを発揮して下さい」という表現があった。すべてお見通しである。すっかり見透かされている。そうなのである。この「おだやかに」が私の課題である。

早速、いただいた葉書を校長室のデスクマットに挟み込むことにした。こうすると自然と毎日見るようになる。だが、それだけでは不十分ではないかと考えた。校長室のいすに座ると正面には昔ながらの鉄製の金庫がある。パソコンで「穏やかに」と印刷し、その金庫に貼ることにした。

いすに座り、パソコンで仕事をしながら、視界には「穏やかに」の文字が入ってくる。これならば、さすがに自制できるであろう。まるで「穏やかに」と諭されているかのようなのである。「おだやか」は、「穏やか」と漢字にしたほうがよいと考えた。

3月からずっと毎日毎日何かしらの判断をしてきているように思う。他の校長先生方も同様であろう。これが大事な仕事である。責任をもって判断、必要とあらば決断、ときには英断をするのが我が務めである。今は非常時である。何一つとして例年通りとはいかない。

私が教頭職であったときにお世話になった校長先生がお二人いらっしゃった。思い返してみるといずれも穏やかな方だった。しかし、内には熱いものがあることを知っていた。信念はあるが、何が何でも自分の考えを変えないと言うわけではなく、柔軟さもお持ちであった。

未熟者の私は、傍らにいてすごいなあと感じていた。お一人は男性であった。いろいろなことがあっても動じず、沈着冷静で判断も早かった。教頭一年目の私は、遅れないようにと必死についていった一年だった。もうお一方は女性だった。この方も常に冷静でものごとに動じることはなかった。内心は様々な感情があったことと思うが、外には出さなかった。自分をコントロールできる方だった。

したがって、私は教頭時代に校長先生に恵まれ、さほどの苦勞をしていない。お二人から校長としてのあるべき姿を学んだ。いや学んだはずだった。学んだつもりだった。ところが、これがなかなか同じようにはできない。

「心が変われば態度が変わる。態度が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。運命が変われば人生が変わる」というヒンズー教の教えがある。つまりは、“心”が変わらなければ何も始まらない。私の場合、もう何年もこの心でつまづいている。

ただし、何もできていないわりに運命は変わっているように思う。これが不思議である。きっと人に恵まれているのである。今回の挨拶状然りである。出会いに恵まれてきた。たぶん運がいいのである。

目の前では「穏やかに」という文字がずっと私を見つめている。何か見張られているようでもある。私の方は難しいが、世の中はもう少しすると穏やかになると信じている。今日は、昨年11月11日からこの「校長室だより」をスタートさせて以来、ちょうど記念すべき100号となった。お陰で今年のテーマが決まった。もちろん「穏やかに」である。